

名詞句構成要素の分類

澤田 英夫

本書に含まれる各論文では、主名詞の前後に置かれ主名詞とともに名詞句を形成する要素を、次の6つに分類する。

グループ1：複数表現

名詞句の表す対象が複数であることを表示する形態素。この形態素を伴う主要部名詞を持つ名詞句は、複数個体を指示する。具体的な数量には言及しない。

グループ2：量化表現

1. 名詞句の表す対象の具体的な数量を特定する数詞を含む表現：日本語の「1つの」「2つの」「約200の」「何十もの」などに当たるもの。
2. 名詞句の表す対象の、数量の範囲（多少、全体の中の割合など）を表す表現：「多くの」「わずかな」「全ての」「ほとんどの」「いくつかの」などに当たるもの。

本論集では、1.として日本語の「1冊の」「2冊の」および疑問の「何冊の？」に、2.として「ある」「全ての」「ほとんどの」「数冊の」「わずかな」「たくさんの」に対応する各言語の形式を取り扱う。

グループ3：所有者表現

典型的には、名詞句の表す対象の持ち主を表す表現。（名詞句の主名詞が動詞から派生した出来事名詞である場合はその出来事の主体を表すが、本書では割愛。）

1. 人称の区別を担うもの：日本語の「私（たち）の」「あなた（たち）の」「彼（女）（ら）の」および「誰の」「誰かの」などに当たるもの。
2. 固有名を含むもの：日本語の「××先生の」「ウー＝マウンマウンの」などに当たるもの。
3. 特定の名詞句を含むもの：日本語の「彼の弟の」「あの先生の」などに当たるもの。
4. 特定性の低い名詞句を含むもの：日本語の「バンコク市民の」などに当たるもの。

名詞（句）と、主名詞に対する関係を表示する、いわゆる「属格」の形態素の組み合わせによって作られることが多い。

本論集では、日本語の「私の」「あなたの」「彼の」「彼女の」「母の」「その金持ちの」などに対応する各言語の形式を取り扱う。

グループ4: 指示表現

名詞句の表す対象の、話し手・聞き手に対する位置関係や遠近の度合を表したり、聞き手に選択肢の中からの選択を求めたりする表現: 日本語の「こ(れら)の」「そ(れら)の」「あ(れら)の」; 「どの」「どちらの」に当たるもの。

具体物を指示する「直示的」用法と、文脈中に現れた名詞句を指示する「照応的」用法がある。

本論集では、日本語の「こ(れら)の」「そ(れら)の」「あ(れら)の」「どの」「誰の」などに対応する各言語の形式を取り扱う。

グループ5: 名詞的修飾表現

主名詞を修飾する表現のうち、名詞句そのもの、あるいは、名詞句+主名詞に対する関係を表示する形態素の組み合わせからなるもの。

グループ6: 動詞的修飾表現

主名詞を修飾する表現のうち、動詞そのもの、あるいは、動詞(句)+主名詞に対する関係を表示する形態素の組み合わせからなるもの。後者の典型例は「名詞修飾節」である。

修飾表現のどれがグループ5に属し、どれがグループ6に属するかは、言語依存的なものである。日本語の例を挙げる。

グループ5: 「外国の」「ラオ語の」「言語学の」「子供向けの」「ベトナム人の」「医者
者の」(「医者である」という意味において)「ぼろぼろの」「金持ちの」

グループ6: 日本語の「分厚い」「大きい」「高価な」「古い」「難しい」「背の高い」「古い」「親しい」「親切な」「良い」「悪い」「昨日買った」「父がくれた」「机の上にある」「まだ読んでいない」「昨日会った」「一緒に住んでいる」「しばらく会っていない」などに当たるもの。

本論集では、グループ5の例として、日本語の「外国の」「××語の」(言語名)「言語学の」「子供向けの」(以上、主名詞が無生物「本」の場合); 「××人の」(民族・国家名)「医者(=医者である)」(以上、主名詞が有生物「友人」の場合)などに対応する各言語の形式を取り扱う。

また、グループ6の例としては、「分厚い」「大きい」「高価な」「古い」「ぼろぼろの」「難しい」「昨日買った」「父がくれた」「机の上にある」「まだ読んでいない」(主名詞が「本」の場合); 「背の高い」「古い」「裕福な」「親しい」「親切な」「良い」「悪い」「昨日会った」「一緒に住んでいる」「しばらく会っていない」(主名詞が「友人」の場合)などに対応する各言語の形式を取り扱う。